

第45回全国ホテル研究大会報告

研究大会の概要

全国ホテル研究会の第45回大会が平成24年5月18日～20日の3日間、鹿児島県霧島市にて、全国ホテル研究会主催、第45回全国ホテル研究大会鹿児島霧島大会実行委員会主管、霧島市・鹿児島県ホテルを育てる会・霧島温泉駅前ホテル会・鹿屋市王子町和田井堰ホテル愛好会・鹿屋市花岡ホテルの里・鹿屋ホテルと水と緑を守る会・南大隅町横ビュー高原ゆめクラブ（滑川校区公民館）・始良市加治木町ホテルを育てる会・始良市住吉自然保全会ホテル部会・指宿市ビオトープてんちの杜・鹿児島市花野川ホテルの里共催、環境省・鹿児島県・鹿児島県教育委員会・霧島市教育委員会・霧島市観光協会・エフエム鹿児島・MBC南日本放送・NHK鹿児島放送・KST鹿児島テレビ・KKB鹿児島放送・KYT鹿児島読売テレビ・南日本新聞・読売新聞西部本社・毎日新聞鹿児島支局・朝日新聞鹿児島総局・日本経済新聞鹿児島支局の後援で盛大に開催され、全国各地から168名の参加をいただきました。

【1日目】

15時から「霧島国際ホテル」にて受付が始まり、16時よりオリエンテーションが開催されました。前田実行委員長の挨拶と諸連絡の後、16時30分より同ホテル内で、第一分科会「自然の中での保護活動」、第二分科会「増殖しての保護活動」、第三分科会「ホテルの里・ホテル祭り」の3グループに分かれて分科会が行われました。その後バスでホテルを出発し、「きりしまホテルの散歩道」でゲンジボタルの飛翔を観察しました。曇り空であったため、ひととき輝きを放ったゲンジボタルを堪能することができました。また、同散歩道はゲンジボタルの他に、ヘイケボタルやヒメボタルも飛翔するようで、参加者は3種が生息する地に関心を示していました。

【2日目】

同ホテルにて研究大会が開催されました。9時30分より水野副会長の開会宣言に続き中村会長、前田霧島市長の挨拶の後、来賓の祝辞と紹介がなされ、開会行事が終了しました。その後、鹿児島県霧島市立霧島中学校ホテル部といった会員による9件の研究発表がありました。研究発表終了後、第45回総会が開催されました。

総会終了後は、同ホテルにて、実行委員会事務局長の上野武次氏の司会で交流懇親会が開催されました。前田実行委員長、中村会長、霧島市役所牧園総合支所の^{へんた}邊田政弘支所長の挨拶があり、霧島スパヒルズ代表取締役の大橋一郎氏の乾杯で懇親会が始まりま



開会式の様子



鹿児島県霧島市立霧島中学校ホテル部
(左は坂元 陽乃さん、右は佐藤 佑哉くん)



「霧島九面太鼓」^{わか}な和奏グループの演奏



大会旗の受け渡し

した。アトラクションとして、「霧島九面太鼓」^{わか}な和奏グループの演奏がありました。奏者は女性だけのグループであるため、女性ならではの感性が生み出す和太鼓の魅力に深い感銘を受けました。次期開催地である福岡県北九州市に大会旗の受け渡しがあり、次期開催地を代表して北九州市建設局水環境課の田口課長の挨拶が行われました。会員や地元大会関係者との親睦を深めることができました。

【3日目】

霧島観光や鹿児島観光を楽しみ、各自解散となりました。

会 場：鹿児島県霧島市 霧島国際ホテル

大会日程：

5月18日（金）

15:00～16:00	受付
16:00～16:20	オリエンテーション
16:30～17:20	分科会 第一分科会「自然の中での保護活動」 第二分科会「増殖しての保護活動」 第三分科会「ホタルの里・ホタル祭り」
19:20～21:00	ホタル鑑賞
5月19日(土)	
8:50～9:20	受付
9:30～10:00	研究大会開会式
10:10～11:50	研究発表
11:50～13:10	昼食
13:10～15:00	研究発表
15:00～16:30	第45回全国ホタル研究会総会
18:00～20:50	交流懇親会
5月20日(日)	
8:00～12:00	観光(霧島観光、鹿児島観光)

研究発表：

- ①ホタル舞う里 郷土「霧島」を目指して …………… 霧島市立霧島中学校ホタル部
- ②駅前ホタル会の活動について …………… 駅前ホタル会
- ③地域連携による「ホタルの里」作りについての活動報告
…………… 鹿屋市王子町ホタル同好会
- ④ホタル移植指針とホタル再生・保護運動 …………… 村上 伸茲
- ⑤400年余の歴史を刻む善光寺用水の改修とホタルを主体とした生き物の保全(I)
…………… 三石 暉弥
- ⑥資料、文献にみるヘイケボタルの化性とゲンジボタル …………… 大内 紘三
- ⑦長野県辰野町の在来ゲンジボタルの発光パターン …………… 井口 豊
- ⑧横浜市におけるゲンジボタルの明滅周期について
～在来個体群と移入個体群の比較～ …………… 後藤 好正
- ⑨東アジアに分布するスジグロベニボタル属 *Pristolycus* ホタルの
外部形態・色彩斑紋変異と生息環境 …………… 大場 信義
(共同発表の場合は発表者のみ)

大会開催地より

全国ホテル研究会霧島大会の御礼のことば!!

大会実行委員長 前田 博志*

今回、全国ホテル研究会第45回霧島大会が5月18日～20日の3日間開催され、北は北海道より南は沖縄までの、会員250名の皆様の参加をいただきました。

開催日までの1年間、県ホテルの会の打合せ及び霧島観光協会、旅館組合及び市役所、各社の絶大なる御協力を賜り、参加していただいた全国ホテル研究会会員の皆様より大成功だったとの言葉を戴きました。

大事なこの場をお借りいたしまして御礼申し上げます。また、私達ホテル会及び地域の皆様方を代表し感謝申し上げます。有難う御座いました。

*駅前ホテル会

第45回全国ホテル研究会鹿児島霧島大会を開催して

霧島大会事務局 上野 武次

45回大会は我が鹿児島県ホテルを育てる会においては、歴史に残る大会となりました。

如何に金を使わないで開催するのかを追求したお陰で、赤字はでないで終わることができました。大会要綱は霧島市役所のご厚意で印刷機を借りることができて、自分で印刷しました。紙代だけで安くあげることができましたし、カードも手作りしました。一

部の方の名前が間違っていて、不快な思いをさせてしまって申し訳ありませんでした。ホテル関係事務は霧島市観光協会の方々が担っていただき、おかげで心配もなくなりました。メールに添付された名簿も10数回作り替えて本番を迎えました。締め切りを守っていただいた方が多かったです、キャンセルも多くて、そのたびに名簿の作り替えは大変でした。お陰でエクセルの使い方が上手になりました。

1日目の分科会は、司会や進行いただいた実行委員会のみなさんが、工夫して進めていただきました。「ホテルの夕べを中止したのは何故ですか」とか、「自然豊かなところなのに、どうしてビオトープを考えるのですか」などと、いろいろな意見も飛び出して、時間が足りないほどの盛り上がりだったということが分かりました。実行委員会で分科会の進め方について審議する過程で、「分科会報告は要らないのか」という指摘があったのですが、今までの大会ではないことが多かったのでやめたのですが、あった方が良かったかなと反省しています。全国の会員さんからいただいた意見をまとめて、これからの実践活動に生かしていきたいと思いました。

夜のホテル鑑賞会では、8時になると飛ばなくなり、止まって光るという下野副会長さんの報告で焦りましたが、6台のホテルのマイクロバスが無事に役割を果たして1日目を終わることができたのはありがたいことでした。

研究大会では会員の吉盛さんが、てきぱきと進行していただきまいした。アナウンサーはいないのですかと本部事務局から言われましたが、お金を節約するためには会員がやるしかなかったのです。去年は全国ホテル研究会事務局がベルを準備されていたので、持っておいでになると思いこんでいたのが失敗でした。吉盛さんの機転で「3分前です」と口頭で言っていただきうまくいきました。ありがとうございました。画面を指すポインターも考えに入っていないと、途中でホテル側が準備していただき良かったのですが、大きな反省材料です。

鹿児島からの発表は、霧島中学校のホテル部の二人がこれまでを振り返りながら、地域の財産を守っている姿が感動的でした。大場先生が南日本新聞の記者さんにコメントしていただいたのが、新聞に載りました。とても力が出るものでした。

鹿屋の和田井堰ホテル愛好会の和田さんの発表も好評でした。わざわざ来鹿されていた知人の方が大会に参加され、話を聞かれて帰られました。霧島温泉駅前ホテルの会の隈元さんの発表は、用水路や周辺の整備をしながら守り続けているホテルについての報告でした。前の日に、ホテルの乱舞を見た所の報告と言うこともあって、みなさんは興味深く聞いていらっしやいました。ご苦労様でした。全国からの発表者は馴れた方が多く議論もあり、ちょっと心配しましたが、矛を収めてくださってよかったです。

夜は懇親会でした。進行係をいろんな方をお願いしたのですが、固辞されたので、事務局の上野が無手勝流で行いました。懇親会まで長かった上に、挨拶も長いということ

で、一部の参加者にいろいろ指摘されました。でも、最後まで残っていただいていたので、機嫌をなおしていただいたのでしょう。踊りにカラオケと盛り上げていただきまして本当に良かったです。

「何回も来ているけど、こんなにぎやかな懇親会は初めてだ。」との言葉もいただきました。8時頃には、全国ホテル研究会事務局の中山さんの指摘で、北九州市への大会旗のバトンパスも無事できました。

次の日は、3台の観光バスを送るために、霧島市無料駐車場に行ったのですが、なかなか人数がそろわなかったこともあり、出発してから愛知の方が見つかって、えびのに行く途中まで車で送っていき、事なきをえました。しかし、あいにくの空模様で、観光はままならなかったのではないかと申し訳なく思ったものです。

大会が終わり、本部事務局に報告する必要がある、ゆっくりする暇なくまとめて追われました。赤字もなく追われたことはうれしいことでした。県内のいろんな方に「おめでとうございました。」との言葉をもらい、うれしさをかみしめました。

参加いただいた全国の皆様、盛り上げていただきありがとうございました。

第2分科会「増殖しての保護活動」の司会をして

大会副実行委員長 小園 新一

45回全国ホテル研究会鹿児島霧島大会において分科会で発表する機会を得ることができました。

地元開催ということで、当初「私でなくても他にいるのでは」と感ずると同時に、身の引き締まる思いをいたしました。

増殖しての保護活動ということで、私ども住吉自然保全会ホテル部は、平成14年から毎年10月にホテルの幼虫を放流、10年間続けてきました。私は部の責任者として、今まで取り組んできたことを全国のホテル研究者に聞いてもらいそして、意見を頂こうとまとめ上げ当日を迎える運びとなりました。

ホテル分科会は、1日目の午後4時30分から午後5時20分までの50分間であり事前に27名の参加申し込みがありましたが、45準備した椅子が全席埋め尽くされる程の大人数となりました。

そして、いよいよ始まり小牧さんの進行のもと鹿児島のホテルの報告がなされていきました。活発な意見が出て、なかでも水温管理、幼虫ふ化後の餌のやり方、1年子・2年子の割合、生息地の維持管理などあつという間に過ぎ、当初時間配分を心配しましたが、終わってみれば時間が足りない程でした。

全国の研究者から、貴重な意見を頂き大いに参考になりました。あらためて日本列島

は縦長くその土地ごとの、風土等がありホテルもそれぞれの地で生き延びているものだと感じることでした。

そして、この続きは2日目の交流懇親会ですることになりました。この大会が終了するにあたり私自身貴重な体験をさせていただき感謝しております。私自身副実行委員長として2年前から準備に取り掛かり、第1回から第7回の実行委員会を経て本大会終了まで前田実行委員長を核心として上野県ホテルを育てる会会長の豊富な知識・統率力ならびに協賛の霧島市、後援の霧島市観光協会などの協力の元、第45回全国ホテル研究会鹿児島霧島大会が無事終了することができ、鹿児島のホテルを全国の人に見てもらい、多くの方々に絶賛を浴びせられたことは、この大会が成功したことの証です。これを機に今後、県ホテルを育てる会がますます充実発展し、親睦を深めホテルの住める環境維持に貢献していきたいと思えます。

第45回全国ホテル研究会鹿児島霧島大会を終わって思った事

川辺 清信*

1. 初日、5月18日、各県毎の受付の担当にあたり、愛知県の方々には大変ご迷惑をお掛けした事を、痛感しています。

団体（大人数）で来られた方には、一連番号を記入していれば、スムーズに資料を渡すことが出来た事反省しています。

2. ホテル観察会をして

観察会は18日夜、霧島温泉駅近くの「きりしまほたるの散歩道」で開いた。

地元有志の駅前ホテル会が、住民の理解を得ながら、照明や草刈り等手入れしている箇所、参加者は里山を舞うゲンジボタルの数に「すごく多い」「きれい」と感激された。新燃岳噴火など懸念材料もあったが、霧島市の協力を得ながら大会を無事成功できたことが一番うれしく思えます。

全国ホテル研究会名誉会長の大場信義さん（神奈川県横須賀市在住）は、「霧島のホテルは活発に発光して、生命力がみなぎっている。中学生の活動は心強い」とたたえられました。

3. 19日研究発表は

鹿屋市王子町和田井堰ホテル愛好会など地元、研究会員9組が壇上に上がりました。霧島中学校ホテル部3年生男女2人が、部の歴史や地域ぐるみで観賞するホテルの夕べなど、年間活動を紹介。この子達が大人になり、次の世代へと引き継いでいってくれるのだろうと心強く又頼もしく感じました。今後も増殖保護、保護活動を続けていきたいという決意に、会場の全員が感動された事と思えます。

2年前から本格的に準備してきた鹿児島霧島大会ですが、全国から250人の参加いただきました。上野県ホテルを育てる会会長始め、前田博志大会実行委員長様、そして地域の皆様方、大変ご苦労様でした。

*鹿屋市王子町和田井堰ホテル愛好会

大会発表者より

霧島市立霧島中学校三年 佐藤 佑哉

僕は、5月19日にホテルの全国大会に参加した。発表の依頼を受けたとき、とてもびっくりした。僕はその発表に行ってもいいかと不安でした。でも発表をするからには、しっかり練習をしないといけないと思いました。そして発表練習で、難しかった事があります。それは、声を大きくして読むことができるか、まちがえずに読めるか、発表当日でみなさんに聞こえるかどうか自分がにとってはとても難しかった。でも僕は陽乃さんと教頭先生と一緒に発表練習をしました。そして、発表当日前、僕はしっかり言えるかどうか不安でいっぱいでした。でも発表途中、みんなに聞こえているか心配でしたが、しっかり発表することができたのでよかったと思います。そして発表後、校長先生や周りの人たちにほめられました。そのときはうれしかったです。でも少し失敗したことがあります。それは一部抜いて発表したことでした。でも最後まで発表できたのでよかったです。できれば発表中は顔を上げて発表すればよかったと思います。そして僕は取材を受けてみてとても緊張しました。取材中は何も言うことができなかつたのですが、取材の方から助言されたことを元に説明しました。取材があるならもっと前から考えればよかったと今になって後悔しています。しかし、取材を受けてよかったことは、自分たちがやっている仕事やホテルの大事さを言えたのでよかったです。ホテル全国大会発表会に参加してみてこれからの発表で自信をもって発表できると思いました。とてもいい発表をすることができたのでよかったです。

霧島市立霧島中学校三年 坂元 陽乃

私が「ホテルの発表会」について依頼を受けたのは、数か月前の放課後のことだった。依頼を受けたときは、正直すごく驚いた。なぜなら、霧島中ホテル部の代表として「全国ホテル研究会」の研究大会に参加できるのだ。うれしいという気持ちと、しっかりと発表しなくてはというプレッシャーもあった。

しかし、私がこの舞台に立つためには克服しなくてはならないことがあった。それは、大きな声で堂々とゆっくと話すことだ。これは、人前で話すときすごく必要なことだと思う。だが、私は今までこれが出来たためしなかった。発表練習の中で文節の間に

斜線を入れてくりかえし練習をした。リハーサルで一度全校生徒の前で発表した後、先生から「良かったよ。」という好評をいただくことができた。

本番当日、緊張で心臓と胃がしめつけられるようだった。会場に行き発表の流れを確認する。途中で、たくさんの方が「がんばって下さいね。」と笑顔で声をかけてくれた。私達を応援してくれている人達がいることを知りとてもうれしかった。

発表が始まった。少しだけ緊張しながらも練習通りしようと自分に言いきかせた。発表では、少しだけ余ゆうができ会場を見渡すことができた。完全とは言いがたいが、今の自分の精一杯のことはできたと思う。ただ1つ失敗をいうとしたら、後もう少しだけ、ゆっくりと大きな声でできたらなと思った。

研究大会が終わった後、霧島中にホテルを見に来て下さった人がいたそう。とてもうれしかった。自分達の取組を多くの人に認めてもらうことができた。私は、「全国ホテル研究大会」に出席することができ本当に良かったと思う。これからも、霧島中ホテル部の一員として自信を持って活動にとりくんでいこうと思う。

バックナンバーの販売について

研究会誌（大会誌）第27号～45号	各号とも500円
情報交換誌第14～15・17・19～24・26～34号	各号とも500円
復刻版「蛍」 原志免太郎著	1000円
復刻版「キセルガイの人工飼育」 鈴木重雄著	800円
購入の申込みは事務局まで	